

元気ふくいっ子読書活動推進計画の概要

平成 22年 3月
教育 庁

前推進計画期間における取組・成果

- ・「福井県子どもの読書活動推進計画」策定(H15.4)
- ・全校一斉読書活動を行う学校の増加
(小学校 15年度:94% 20年度:100%)
(中学校 15年度:68% 20年度:87%)
(高 校 15年度:37% 20年度:57%)
- ・公立図書館との連携を行う学校の増加
(小学校 15年度:78% 20年度:91%)
(中学校 15年度:47% 20年度:57%)
- ・公立図書館の児童蔵書冊数の増加
(児童蔵書冊数15年度:72万冊 19年度:97万冊)
- ・県主催の子ども読書活動講座の実施
児童生徒対象の講座参加者数 15～20年度:1,697名
乳幼児対象の講座参加者数 17～20年度:1,450名
指導者養成講座参加者数 19～20年度: 69名
- ・読書ボランティアと協働している学校の増加
(平成20年度 小学校78% 中学校14%)

前推進計画期間における課題

- ・インターネット、E-mail、携帯電話、テレビゲーム等の普及により
家庭での読書時間が減少している
家庭で平日30分以上読書をしている児童・生徒の割合
H20 小学校34.6%(全国36.8%) 中学校25.3%(全国27.9%)
H21 小学校32.5%(全国35.2%) 中学校23.1%(全国26.6%)
- ・平日家庭で「全く読書しない」割合(21年度)
小学校22.4%(全国21.7%) 中学校43.0%(全国39.4%)
- ・学校図書が整備が不十分
1校当たりの蔵書冊数(20年度)
小学校 6,527冊(全国 7,606冊) 中学校 8,398冊(全国9,541冊)
図書標準達成学校割合(20年度)
小学校45.5%(全国45.2%) 中学校22.4%(全国39.4%)

子どもの読書活動をめぐる情勢の変化

- ・教育基本法(H18.12)、学校教育法の改正(H19.6)
(読書に親しませ、国語を正しく理解する能力を養う)
- ・文字・活字文化振興法の施行(H17.7)
(公立図書館、学校図書館の充実が必要である)
- ・新学校図書館整備5カ年計画(H19～H23)
(学校図書館図書標準の達成を目指す)
- ・子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画
(第二次)(H20.3)
- ・図書館法の改正(H20.6)
(図書館は教育活動の機会を提供すること)
- ・指導要領の改訂(H20.3)
(図書館の計画的利用、読書活動の充実)
- ・2010年「国民読書年」(H20.6決議)

基本目標： 子どもが自主的に本に親しみ、みんなで読書を楽しむ環境づくり

重点活動： 心豊かな元気ふくいっ子を育む読み聞かせの推進

～ 想像力・思いやり・コミュニケーション能力を育てる～

【施策の体系】

家庭・地域・学校
を通じた読書活動
の推進

施設、設備の
整備・充実

関係団体の
連携・協力

人材育成・社会的
機運の醸成

【家庭では】

- 家族みんなで読み合い・読み聞かせ
読書時間の確保
- ・ノーテレビタイム、ノーゲームタイム
- ・就寝前の本読みタイム
- ・「本のある生活」の推進
- ・家庭に書棚を置く「マイ図書館」づくり
- ・家族の外出コースに図書館や書店を
入れる働きかけ
- ・ブックスタート事業との連携

【地域では】

- 読書ボランティアによる図書館・公民館等
での読み聞かせ
- ボランティアや保護者のための読み聞か
せの研修講座の実施
- 公立図書館でのおはなし会、ブックトーク、
見学会、展示会の実施
- 児童館、公民館での「ミニ図書館」づくり
- 公立図書館のレファレンス機能の充実
- ブックスタート事業の推進
- 本のリサイクル運動の推進
- 図書館の貸出カードの普及
- 読み聞かせボランティア相談会

【学校では】

- 朝読書の時間等を利用したボランティア等に
よる読み聞かせ(人材バンクの活用)
- 学校図書館を活用した授業
- 各学校での図書選定の工夫(選書会の実施)
- 読書指導における効果的な活動の導入
(例)ブックトーク、読書マラソン、読書ゆうびん
- 本のリサイクル運動(古本市、フリーマーケット)
- 図書館運営におけるボランティアとの協働
- 公立図書館から学校への団体貸出
- 公立図書館の貸出カード所持の推進
- 公共放送(NHKラジオ第2・教育テレビ)の利用
- 教職員による児童生徒へのお薦め本の紹介

期待される成果： 家族の絆を深め、社会性を高め、読解力をつけ学力向上をはかる